

# 公邸「忘年会」 「世襲」が生む公私混同

赤じゅうたんの敷かれた階段で、新闘縫の記念撮影をまねたり、寝そべってアイスを食べた記者会見用の演説台でポーズを決めたり……。およそ公的な空間にふさわしくない、公私混同の不行跡どころではない。

岸田首相の長男で政務秘書官を務める翔太郎氏が昨年末、首相も着らず公邸に親族を招き、「忘年会」に興じる様子を、週刊文春が写真とともに報じた。首相官邸に隣接し、首相や家族が住む公邸には、執務や国内外の賓客をもてなす機能もある。首相は一昨日の参院予算委員会で、私的な居住スペースでの会食に問題はない、自分も顔を出して、あらわれをしたと説明した。ただ、報じられた行動は公的な空間では「不適切だつた」と認め、自ら翔太郎氏を厳しく注意したと述べる一方、更迭は否定した。

昨年末といえば、安倍元首相

の「国葬」の強行や、次々と第3回する世界平和統一家庭連合（正統一教会）と自民党との関係、4閣僚の相次ぐ更迭などを決めたり……。およそ公的な空間にふさわしくない、公私混同の不行跡どころではない。

国民の厳しい視線が注がれているところに、緩みきった振舞いは信じがたい。首相を支えるべき秘書官として、その資質を疑わざるを得ない。

翔太郎氏は今年1月、首相の欧米歴訪に同行した際、公用車を使って、名所めぐらや買い物をしていたことが判明し、今回と同様、公私混同などと厳しく批判された。

政府は、対外発信用に外觀を撮影したり、首相のお土産を買ったりしただけ、「不適切な行動はなかった」というが、写真はその後、使われた形跡がない。朝日新聞の情報公開請求に対しても、行政文書に当たらないので保存していないとして、

3月に「不開示」決定がなされた。されど、とてもその言い分を信じるわけにはいかない。

そもそも、政治経験の浅い翔太郎氏の起用は、自身、祖父の代からの「3世議員」である首相の「世襲」に向けた布石とみられていた。身びいきが招いたおじりであり、任命した首相の責任も改めて問われる。

政治家の世襲に対する有権者の見方には厳しいものがある。先月の衆院山口2区の補欠選挙で当選した岸信夫前防衛相の長男が、想定以上に苦戦したのは、その表れだろう。

今年に入り、内閣支持率は回復傾向にあり、先日の広島サミットでも、内外に成果をアピールできたとして、政権には高揚感が漂う。だが、足元を直視せず、謙虚さを失うようでは、国民の気持ちとは瞬く間に離れかねない。首相はそのじみを、肝に銘じなければならぬ。